

九州・沖縄



p.74 佐賀県

前田文博さん
ソフトテニス



p.75 長崎県

吉田俊生さん
弓道



p.76 熊本県

坂澤光司さん
剣道



p.77 熊本県

藤崎幸次郎さん
囲碁



p.78 宮崎県

梅崎秀彰さん
将棋



p.79 宮崎県

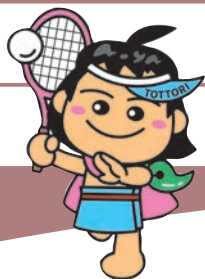
黒岩正明さん
卓球



p.80 沖縄県

仲尾次嗣明さん／仲尾次節子さん／
尾尻義彦さん／尾尻孝子さん／
岡 潔さん／喜舎場梨枝さん
マラソン





ソフトテニス 佐賀さいこう 2024 (監督兼選手)

まえだ ふみひろ

前田 文博さん 63歳 ●参加歴：1回目

「佐賀さいこう」なチームで再会を約束

「60歳になったら『ねんりんピック』に行くぞ」と密かに目標設定。しかしながら、新型コロナウイルスの影響で2年間の開催中止。「なるべく若いうちに出場したいのに」と気持ちは焦るばかり。その後コロナ禍が落ち着き再開されるも、1回目の挑戦は県予選敗退。翌年の挑戦で、見事出場権獲得となりました。

出場決定から本大会まで約1年。「さあ練習あるのみ」と気分は盛り上がるものの、長年酷使したことによる膝痛勃発。左膝の半月板損傷との診断で手術を勧められましたが、結局は様子を見ながら騙し騙しプレイすることに……。

そしていよいよ本大会。チーム名の「佐賀さいこう」は、「最高」「再興」「さ～行こう」など、いろいろな意味が込められている佐賀県知事のキャッチフレーズを使わせていただきました。

そんな「さいこう」な佐賀県チームですが、今回のメンバーは体調が万全でない選手もあり、あまり期待できないというのが大方の予想。さらに、当日試合会場で周りを見渡すと、どう見ても強豪揃い。「1勝できたらいいな」と感

じたのは私だけではなかったと思います。

ところが、蓋を開けてみるとあれよあれよの快進撃。予選リーグ3戦全勝で1位通過。決勝トーナメントは初戦で敗れたものの、大健闘の佐賀県チームでした。

それから、もう一つの楽しみが米子観光。市循環バスを乗り継ぎ、観光ガイドさんの案内で街中を散策したほか、お目当ての海の幸・ドライカレー・温泉などを満喫。IDカードの特典も利用し、楽しくお得な時間を過ごすことができました。

そんなこんなのねんりんピック初体験でしたが、選手6人全員が以前から親しかった訳ではなく、最初はお互い遠慮がちなところもありました。ただ、4泊5日とともにソフトテニスを楽しみ、観光を楽しみ、お酒を酌み交わすなかで、日に日に一体感が増し、まさに「佐賀さいこう」のチームになれたと思います。解散する際には、「また、このメンバーでチームを組みたいね!」と誓い合っただけでそれぞれ帰途につきました。

末筆ではございますが、多くの時間をかけて準備され、大会運営にご尽力いただいた大会関係者の皆様、本当にお世話になりました。皆さんの温かいおもてなしに感謝感謝です。また機会がありましたらお邪魔させていただきます。「鳥取さいこう!」



佐賀県応援のぼり旗の前でチームメイトと。(右端)



予選2回戦を控え、大会コート前で記念撮影。(左端)



弓道 長崎（監督兼選手）

よしだ としお

吉田 俊生さん 77歳 ●参加歴：8回目

弓友との交流を楽しみに、笑顔の絶えない大会に

ねんりんピックの参加は今回で8回目です。初めての参加は北海道・札幌大会でした。初回から、最終日以降はチームで自由行動をしており、今回も弓道の6人のメンバーで観光を大いに楽しみました。これもねんりんピックに参加する楽しみの一つです。

総合開会式は、残念ながら雨天のため会場が変更となり、観覧席での参加はできませんでした。しかし、競技場に設置された大モニターで体育館での開会式の様子を一部見ることができました。その時間には天候も良くなり、地元各種団体のアピールブースを回ることができました。来年度以降の開催地の広報場所もあり、それぞれ工夫されていました。くじを引いたり、地酒の試飲・試食をしたりと、大いに楽しむことができました。アトラクションメンバーとの記念撮影もできました。

競技会場は米子でした。県立武道館内の弓道場で行われました。まだコロナの影響が少なからずあり、以前の射数からは一手（2射）少ない一人6射でした。去年は予選4射でしたから

少しは回復しています。本来は、1日目に4射、2日目に4射の計8射です。私たち長崎県チームは、全員が本来の実力を出せば予選通過は心配ないと思われたのですが、なかなか思うようにいかず、2日目の2射に期待しました。10射7中以上すれば、おそらく予選通過するだろうと考えていました。1射目は順調でした。皆よく頑張り、5射4中でした。最後の一人1射（計5射）に期待がかけられましたが、あと1中が不足し、19位タイとなりました。

地元の鳥取県Bチームが決勝トーナメントに出場したとき、1回戦で敗れましたが、控室にいた周りの他県の観覧者は自然と鳥取県を応援していました。終了後には、鳥取県の関係者が深々と頭を下げ「ありがとうございました」と笑顔で御礼を述べられ、さわやかな気持ちになりました。

会場では、他県の弓友との交流を楽しみました。さすが弓道人、マナーが良く、譲り合いの気持ちで笑顔の絶えない大会でした。また、地元の保育園の園児が来場し、会場の通路で「頑張って!」としっかり応援してくれて、さらに選手を笑顔にさせていました。地元の人たちの多くのおもてなしもあり、大いに楽しめました。誠にありがとうございました。

このような意義ある大会に参加できたことは、地元長崎県のすこやか長寿財団の皆さんの熱心なお世話のおかげです。また、開催県の鳥取県の皆さんの多くのおもてなしにも心より感謝申し上げます。



気の置けないチームメンバーと記念撮影。(右から2番目)



剣道 熊本県 (監督兼選手)

さかざわ こうし

坂澤 光司 さん 71歳 ● 参加歴：1 回目

念願のねんりんピック初参加で3位入賞！

61歳で県予選に初めて挑戦し、上位に入ったもののねんりんピック派遣選手に選出されず、その後何回も跳ね返されました。新型コロナウイルスの影響で大会中止も続くなか、初挑戦から10年経ち、今回ついに70歳以上の部で、監督兼選手としての参加が叶いました。

60歳を過ぎてこれほど稽古をしたことはないという日々を、選出された選手の皆さんと一緒に過ごしました。特に選手の一人の大学OBである先生方との練習試合は、本大会につながる貴重なものでした。

結団式では、木村県知事、くまモンほか多くの方々の激励を受けて、いつでも試合に臨めるぞ、という気持ちになり、選手団全体の意識も高まっているように思いました。

10月18日の朝8時前、熊本駅に集合。他競技の選手の方々より出発時刻が早く、剣道競技6名だけの出発でした。熊本さわやか長寿財団の役員の方や添乗員さんに見送られ、全員「行くぞ」の気持ちがみなぎり乗車しました。

岡山駅から特急やくもに乗り換え米子駅に到着したのは午後2時半。改札を出るとボランティア

アの方々温かくお出迎えしていただき、旅の疲れもどこかへ消えていってしまいました。

19日、いよいよ本番です。会場に漂うピリピリとした緊張感を和ませたのは、子どもたちの歓迎アトラクション、和太鼓の演奏でした。一生懸命に太鼓を打つ姿は爽快なものでした。開始式も終了し、いよいよ試合開始です。

初戦は名古屋市です。12時40分からの試合まで時間があつたので、アップ練習をしました。

名古屋市に勝ち、次の徳島県にも勝つことができ、20日の決勝トーナメントに進むことができました。決勝トーナメント1回戦は地元鳥取県Cチームで、大将だけが男性、あとは女性です。すごく強敵でした。一本勝ち、一本勝ち、の同点でしたが、代表選で何とか勝つことができベスト8へ進出。次の対戦相手は兵庫県で、ここにも1対0で勝ち、準決勝へ進みました。

準決勝の相手は、優勝した鳥取県Aチームです。ついに力尽きてしまいました。しかし、堂々の第3位です。胸を張って熊本へ帰れます。夜は喜びの打ち上げで盛り上がりました。

交流試合翌日の観光もたいへん楽しみでした。

旅慣れている選手の方が計画してくれた米子城跡をみんなで見学し、鳥取県を満喫しました。

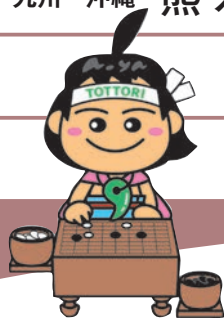
喜びを胸に、そして、ボランティアの方々の親切で心温まる対応に感謝し、帰熊しました。

試合会場ではくまモンの胸が大人気に。



優勝チームに惜しくも敗れるも、団体戦で銅メダルを獲得。(右から3番目)





囲碁 シン・白黒くまモン (選手)

ふじ さき こう じ ろう
藤崎 幸次郎 さん 69 歳 ● 参加歴：3 回目

夢は囲碁を通じて平和な世界をつくること

熊本県選手団の代表として3回目のねんりんピックに参加することができました。私は足が悪く車椅子を使用しているため選手団バスで参加できず、毎回自家用車で参加しています。今回は4日間で全行程2000kmを走りました。

陸上競技場での総合開会式が雨で会場変更になり、体育館での開催となったのは残念でした。開会式後にホテルのフロントで山形県代表の方にお会いしました。なんと次の日の1回戦の相手で、対局前に同じテーブルにいらしゃった福井県の代表の方と3人でお話ができ、楽しい時間を過ごせました。初戦は何とか勝つことができ幸先の良いスタートを切れました。

会場には、ボランティアの方がたくさんおられて、これまでで一番心のこもったおもてなしを受けました。たくさん参加賞をいただいたり、対局前に身体をほぐす体操があったり、お弁当には温かい豚汁や柿の葉寿司を振舞われたりと、きめ細やかなサービスをしていただきました。また、ペットボトルのお茶やジュース類も無料でサービスしてくださり、本当にありがたかったです。

初日は運良く2連勝できました。特に2回戦は浜松市代表の全国レベルの強い方と当たり、お互いに50分の持ち時間をほとんど使い切る大熱戦の末、僅差で勝つことができました。心臓はバクバク、汗はたらたら、肩で息をするくらい本当にしんどい対局でした。これまでその方にはほとんど勝つことがなかったので大変うれしかったです。

大会2日目は埼玉県代表の方と当たり、棋譜を取ってもらいました。運良く勝てたその碁は、

埼玉の新聞に掲載されるそうです。4局目は石川県代表の方と当たりましたが、緊張の糸が切れたのか相手の方が強かったのか、あっさり土俵を割り、3勝1敗で大会を終了しました。

今回一緒に参加した熊本県選手団の金森さんと志水さんとは、ご飯もご一緒してお話できて楽しかったです。志水さんは88歳で高齢者賞を受賞されるお年ですが、すごくお元気でいろいろお世話をしてくださり助かりました。

私はいつも、NPO法人熊本子ども囲碁普及会のお手伝いや小学校での囲碁指導、自宅で週5日夜にネット子ども囲碁教室、新聞囲碁欄の解説(月5譜)の執筆等をして囲碁三昧の生活です。夢は、世界中の子どもたちに囲碁の楽しさを伝え、その子どもたちに戦争やいじめのない平和な世の中をつくらせてもらうことです。

次回もまた代表になれることがありましたらぜひ参加したいです。今回お世話になった、熊本さわやか長寿財団や旅行会社の方に厚く御礼申し上げ、私の体験談といたします。



ハードな対局を経て、笑顔のチームメイトとともに。(中央)



将棋 ひなたチーム (選手代表)

うめざき ひであき

梅崎 秀彰さん 69歳 ●参加歴：1回目

知らない世界がそこにあった

ねんりんピックはもう一つの趣味である「ラージボール卓球」で知っていましたが、県代表になるほどの実力もなく、自分には無縁のものと思っていました。数年前、藤井聡太さんの影響もあって、40年遠ざかっていた将棋を再開。将棋勘も少しは戻ってきたかと思いきや、ダメ元で出た県予選で2戦逆転勝ちを含め6勝1敗で優勝し、初参加という不安はありながらもチャレンジすることにしました。

代表3選手の決定後、お一人がご都合がつかずに不参加の打診を受けましたが、団体戦だけでなく個人戦もあるし、今後出られる自信もないので出ることにしました。ただ、「全敗したら」とか「参加することに何とやら」とか、心は揺れ動いていました。大人数の団体行動（50年以上前の学生時代以来）に戸惑いながら初日の宿泊地である姫路に到着。ホテルの会食での他競技の皆さんのスピーチは、後ろ向きになっていた私の心を前向きにしてくれ、大会で頑張ろうという思いになりました。

2日目は開会式。運動公園でさまざまな出店、催し物を楽しみ、お土産をいくつか買い求め、終了後行動をともにしていた宮崎県代表団はそれぞれの戦いの場へ。明日から戦う他県の代

表との呉越同舟のバスは、新首相誕生で沸く八頭町へ向かいました。

2晩目からのホテルの居心地も良く、懐石料理で旅の疲れを癒し、熊本代表の知人と練習将棋を指して大会初日の団体戦へ。最初から一不戦敗確定のなか、東京都、京都市と連敗しましたが、最終戦で一勝を挙げて肩の荷が下りました。翌日の個人戦では9つのブロック別トーナメントで、宮崎県の予選同様、逆転勝ちで4連勝し思いもよらない金メダル、相方も別のブロックで銀メダル。帰宅後、家内は副賞の米2キロを喜んでおりました。

想像以上の開催規模、美しい自然とおいしい食材、返す返す参加して良かったなと思えました。まだ参加していない方々にはぜひ予選参加をお勧めします。今回もそうでしたが、参加資格を得ても棄権される方もいますので。いろいろ教えていただいた参加3回目の相方Mさん、果物や汁物を提供していただいた地元の方々、大会で出会った将棋仲間、そして修学旅行生よろしく手取り足取りお世話をしてくださった社会福祉協議会の皆様のおかげで、古希を控えた私が忘れられない4泊5日を過ごせたことに感謝申し上げます。



初出場で勝ち取った金メダルと表彰状。表彰式を終えて喜びいっぱいの笑顔で。



卓球 マンゴー宮崎（選手）

くろいわ まさあき

黒岩 正明さん 88歳 ●参加歴：8回目

88歳、8回目のねんりんピックに感慨無量！

もともと旅が好きな私は、ねんりんピック参加は「4泊5日の旅」と称して、生涯の生きがいづくりに日頃から卓球の練習に励んでいる。

高校時代より卓球を始め、卒業後、海上自衛隊に入隊。徳島の海上自衛隊ではクラブで活動していた。60歳のときに職場の先輩の勧めで県予選に参加し3位入賞。また、ねんりんピックみやざき大会にも出場し、補助員として総合開会式の県旗入場も務めた。みやざき大会後にラージボール卓球に転向し、現在は妻の介護の傍ら週2～3回のペースで楽しみ、健康づくりに努めている。全国大会に7回出場し（宮崎、徳島、群馬、鹿児島、熊本、栃木、和歌山）、徳島大会では海自時代の懐かしい仲間に出会うことができた。また、テレビ等で参加した地域の映像が流れると当時を思い出し、それが楽しいひとときとなっている。

ねんりんピックとっとり大会の出発の日が近づき、各種の大会資料を手にした。その中の参加者資料（卓球）に三朝温泉散策マップがあり、10月19日～21日までの宿泊先が三朝温泉三朝館と知った瞬間、「よし、やった」ととてもうれしくて、これまでで「最高の所」になると確信した。

卓球交流大会開始式では倉吉市長のあいさつがあり、次に特別表彰、そして最高齢者賞の発表へ。私は壇上で最高齢者賞をいただき、この上ない名誉なこととして感激した。

とっとり大会では県を挙げてのおもてなしが行き届いており、倉吉の卓球会場でも心温まるおもてなしを受けながら、全国からの選手団と倉吉市民の皆様との親睦・交流が十分にできてうれしく思った。

ホテルに帰っても楽しみが多く、一番に三朝館自慢の温泉、特に露天風呂は素晴らしく、ちらほら紅葉が見られ心にしみた。次に風呂上がりの夕食、目に余る料理が並び各県選手団員との会話も盛り上がり、祝杯もすすんで至福のひとつきを過ごせた。朝食も夕食に劣らず、連日のシジミの味噌汁はありがたく心に残った。

今回の大会では、肝心の卓球成績は下位で終わり、団長をはじめ担当役員の方々には、誠に申し訳なくお詫びを申し上げる次第である。

私は、90歳台になっても仲間とともに卓球を楽しみ、チャンスがあればねんりんピックにまだまだ参加したいと考えている。「参加することに意義あり」で旅行を楽しんでいくことが私の生きがいである。



最高齢者賞受賞の喜びを練習仲間と分かち合う。（前列左から3番目）



元気なプレイは日頃の練習のたまもの。（奥左）



マラソン 沖縄県（選手）

多くの方にこの喜びを体験してほしい

なか おじ し めい

仲尾次 嗣明さん（88歳／3km／3回目）

犬と猿の仲だが走ると仲良くなる。妻とともに同じユニフォームを着て、県代表として那覇を出発。妻はスポーツ音痴だったが75歳頃からウォーキングを始め、トランポリンなどで鍛えて走れるようになった。結果は私より速かった。各県とも高齢者スポーツが花盛り。沖縄の高齢者も「ひやみかち（気合を入れる）」てほしい。

なか おじ せつ こ

仲尾次 節子さん（81歳／3km／1回目）

70歳を過ぎてから健康のために少しずつ走っていたおかげで、初めて参加させてもらいました。他県選手との交流、スポーツの楽しみをたくさん体験しました。ランニングクラブの皆様や沖縄県社会福祉協議会、鳥取の皆様のおかげで心温まるサポートに心から感謝いたします。多くの皆様が大会に参加されると良いかと思えます。

おじり よし ひ こ

尾尻 義彦さん（69歳／5km／2回目）

2018年開催のとよま大会に続いて2度目の参加でした。盛大で晴れやかな総合開会式と各種イベントが荒天のため予定通り行えなかったことは残念でした。宿舎にて他県の参加者と交流が持てたことは良い思い出となりました。鳥取県の方の心温まるおもてなしに感動しました。心から感謝いたします。

おじり たか こ

尾尻 孝子さん（62歳／5km／1回目）

マラソン競技の宿では他府県の方と楽しく交流ができ、おいしい食事に気持ち良い温泉と、充実した時間を過ごしました。このような機会を一人でも多くの方が体験できることを望んでおります。また、沖縄県と鳥取県の多くのスタッフの皆様には、大変お世話になりありがとうございました。良い思い出ができました。

おか きよ し

岡 潔さん（60歳／10km／1回目）

60歳になったら参加したいと希望していた大会。大雨で開会式に参加できなかったのは残念でしたが、沖縄や他府県の選手たちとの交流もできて、素晴らしい経験となりました。参加競技は悔しい結果でしたが、他選手たちと競い合えたのは良い経験です。今大会に携わったすべての皆さんに感謝申し上げます。

きしゃ ば り え

喜舎場 梨枝さん（66歳／10km／2回目）

今回参加できたことで、他県のお元気に活躍されている先輩の方々とも交流ができ、70歳、80歳と元気に歳を重ねることが楽しみになりました。こんな機会を与えてくださったねんりんピックに感謝でいっぱいです。



多くの選手との交流の輪が広がった沖縄県チーム。左から、岡潔さん、喜舎場梨枝さん、仲尾次節子さん、仲尾次嗣明さん、尾尻孝子さん、尾尻義彦さん。